

いよいよ 革新懇の出番

結成 10 年目 充実した活動をやり抜こう

仲間みなさん

私たちは今日から 10 年目の活動に入ります。

いま、私たちをとりまく政治経済情勢はかつて経験したことのない激動・激変の緊迫した中にあります。

昨年 9 月発足した安倍政権は両院の多数に悪乗りし、防衛省昇格・教育基本法改悪・イラク派兵延長・米軍基地拡大・集団的自衛権の拡大解釈・国家公務員法改正による天下りの自由化、国民投票法の採決など 17 法案を強行採決し、かつてない規模と早さで右寄りタカ派路線を強行してきました。一方、小泉・安倍と続いた自公路線は国民生活に格差と貧困の拡大をもたらし、教育・雇用・医療・福祉制度を切り崩し、国民各層に大きな不安と怒りをまきおこしました。憲法改悪の動きに対して「憲法 9 条を守ろう」という運動も広範に広がっています。

7 月の参議院選挙では国民は自民党に対し歴史的な打撃を与えました。国民は弱肉強食の新自由主義型「構造改革」路線と憲法改悪につながる「戦後レジームからの脱却」に「ノー」の態度を明確に示しました。国民は自公支配の政治経済の枠組では日本の前途がないとの判断を示したのです。「国のあり方に国民が主権を発動した」（品川氏発言 9 月 23 日「赤旗」）と評される状況が生まれました。

9 月 12 日安倍総理は突然、政権を投げ出しました。前週にブッシュ大統領と「国際公約」を交わし、「職を賭す」と大見得をきり、3 日前に施政方針演説を行い、野党の代表質問が始まる 10 分前に投げ出すという無責任・異常な辞め方です。日本の政治史上こんな例はありません。後任総理の選出をめぐるのは、派閥・密室談合から福田・麻生候補が国民不在の派手なパフォーマンスを繰り広げ、福田総理が誕生しました。新閣僚・新自民党 4 役の顔ぶれは派閥の領袖と「改憲・増税論者」のオンパレードです。福田政権は国民の審判を受けたはずの「構造改革」路線を継続するといいい、何の反省もありません。みずから「背水の陣内閣」というとおり、後はありません。総辞職・解散総選挙がいつ行なわれるか、予測つけがたい情勢です。

いま、日本の政治経済情勢は永らくつづいた自民党支配と自公路線を見限り、「国民が主人公」の新しい政治経済路線への歴史的転換期にあります。『平和・民主主義・国民生活の向上』実現の革新三目標を掲げる革新懇運動がいよいよ真価を発揮する時代が到来しています。いよいよ革新懇の出番です。

仲間みなさん

私たちは 9 年前、職場革新懇の仲間入りを果たし、さまざまな活動を展開してきました。

この 9 年間に簡単にふりかえると、

私たちは損保産業では最初の革新懇でしたが、その後各地で損保革新懇が誕生し、さらに 2004 年に著名人の呼びかけによって『9 条の会』ができ、各地で損保 9 条の会も結成さ

れました。この仲間と友好・連帯が発展しています。ブックレット『損保の未来』（2000年）、『私たちも憲法改悪に反対しますー世界と日本の平和と損害保険産業ー』（2006年）を刊行、それぞれ7000部以上を全国の仲間に普及しました。2002年から自前のホームページを開設し、すべての活動を全国の仲間に発信しています。広島平和バスツアーは3回実現し、2005年には憲法改悪反対署名6600筆を達成、同年の損保宮島平和集会は損保革新懇・損保9条の会9団体で共催し、150名が結集しました。この間、全国革新懇交流集会、大阪革新懇年次総会ではたびたび活動報告をおこない、職場革新懇活動の強化・発展を呼びかけてきました。

今年は2月と5月に『損保産業と平和を考える大学習会』を開催し、最新の損保情勢と職場の現状を学びました。この集会にはのべ233名が参加し、特集号2000部を普及しました。今年3月、われわれの顧問的・相談役的な品川正治さんが全国革新懇世話人代表に就任され、全国で講演行脚を続けられていることから限りない励ましを得ています。

私たちはこの間の活動を通じて、平和と損保産業とそこで働く者ものとのかかわりについて次の座標軸として確認し、活動の原点においています。

- (1) 損害保険産業は世界の平和や日本経済の健全な発展と国民生活の向上と共に成長し、この発展と向上を支える産業であること
- (2) 業の精神である「一人は万人のために、万人は一人のために」を原点に、社会性・公共性を発揮する産業として発展し、国民生活の安全と安心に役立つこと
- (3) 損害保険従事者の願いは産業の誇りを持ち働きがいのある生活と人生を送ること

この数年、アメリカ言いなりの日米保険協議の結果、損保産業では大型再編・合併が続き、金融・保険の自由化、新自由主義・市場原理主義型の競争がますます激しく繰り広げられています。大手会社を先頭に各社は損害保険産業本来の社会的役割発揮は二の次とし、収保拡大・利益追求・代理店制度破壊・従業員削減・労働条件改悪・雇用制度流動化などあらゆる面での「効率化・合理化」を追求しています。この1年に大手4社が金融庁から業務停止命令を受けるという異常な産業の形になっています。

いま、私たちが当面とたたかいとして取り組んでいる三つのたたかい、**東海日動のたたかい、田崎博美さんのたたかい、高田橋さんのたたかい**は各社の「効率化・合理化」の労働政策・職場専制支配政策そして代理店政策が背景にあります。

私たちは損保産業ではたらくすべての人たちの雇用と労働条件を守り、損保産業の民主的な発展を願う立場からこの3つのたたかいを支援・協力していきます。

仲間のみなさん

結成10年目、現在の激変・激動・緊迫する情勢は革新懇の時代の到来です。私たちの存在と活動や提言を多くの仲間が賛同してくれていますが、損保の職場や労働者のおかれている状況を考えるとき、もつと会員を増やし、質量にわたる活動の強化と充実が問われています。みなさん、ともにがんばりましょう。

2007年10月19日

大阪損保革新懇第10回総会